

事例番号:350289

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第六部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

妊娠 35 週 1 日 前期破水のため入院

3) 分娩のための入院時の状況

管理入院中

4) 分娩経過

妊娠 35 週 5 日

6:02 頃- 胎児心拍数陣痛図で変動一過性徐脈および遷延一過性徐脈の出現

6:46 頃- 胎児心拍数陣痛図で基線細変動の消失をともなう高度遷延一過性徐脈の出現

7:18 胎児機能不全の診断で帝王切開により児娩出、骨盤位、双角子宮

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:35 週 5 日

(2) 出生時体重:2100g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.28、BE -7.6mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 1 点、生後 5 分 3 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)、気管挿管

(6) 診断等:

出生当日 低酸素性虚血性脳症

(7) 頭部画像所見:

生後 6 日 頭部 MRI で大脳基底核・視床に信号異常を認める

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 3 名、小児科医 1 名、麻酔科医 1 名

看護スタッフ:助産師 4 名、看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、分娩経過中に生じた胎児低酸素・酸血症により低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考える。
- (2) 胎児低酸素・酸血症の原因は、臍帯圧迫による臍帯血流障害の可能性が高い。
- (3) 胎児は、妊娠 35 週 5 日の 6 時 46 分頃より急激に低酸素・酸血症の状態となり、その状態が出生時まで進行し低酸素・酸血症に至ったと考える。

3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

- (1) 妊娠初期から妊娠 33 週 5 日までの妊娠管理は一般的である。
- (2) 妊娠 35 週 1 日に前期破水と診断し、入院管理としたことは一般的である。
- (3) 前期破水および切迫早産で入院中の管理(血液検査、抗菌薬の投与、分娩監視装置の装着など)は一般的である。

2) 分娩経過

- (1) 妊娠 35 週 5 日の陣痛発来後の分娩管理(分娩監視装置装着、内診、子宮収縮抑制薬を中止し分娩の方針としたこと)は一般的である。
- (2) 胎児心拍数陣痛図上、遷延一過性徐脈が出現している状況で 6 時 44 分に緊急帝王切開を決定したこと、および 6 時 49 分に超緊急帝王切開に変更し、人員召集などを行ったことは、いずれも一般的である。
- (3) 帝王切開決定から 34 分後に児を娩出したことは一般的である。
- (4) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

(5) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管)は一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

早産期前期破水で入院した場合には、超音波断層法による胎位、推定体重、羊水量の確認を適宜実施し所見を診療録に記載することが望まれる。

【解説】本事例では妊娠 35 週 1 日に前期破水で入院後、胎児心拍数陣痛図による胎児健常性の監視は行われていたが、超音波断層法は妊娠 33 週 5 日に外来で実施された以降には実施されていなかった。早産が予想される前期破水では胎位や推定体重は分娩方針決定や新生児蘇生に重要な情報であり、また前期破水では羊水量が変動することで胎児健常性に影響を及ぼす可能性もあるため、適宜超音波断層法を実施し所見を診療録に記載することが望ましい。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

重篤な胎児機能不全で緊急帝王切開を決定した際に児娩出までの時間をさらに短縮できるよう、設備や診療体制について検討することが望まれる。

【解説】本事例では超緊急帝王切開の決定から児娩出まで 29 分であったが、重篤な胎児機能不全では可及的速やかな娩出が児の予後改善に寄与することが知られている。当該分娩機関が高次医療機関であることを考慮すると、さらなる時間短縮に向けて設備や診療体制について検討するとともに、各部署合同のシミュレーションを実施することが望ましい。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

子宮形態異常を伴う妊娠での有害事象について集積して検討し、周産期管理の指針が示されることが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して
なし。